

研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進
型
スタートアップ・エコシステム形成支援
R4年度補正予算(EDGE-PRIME Initiative)
実施報告書

「Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)」

活動期間: 2023年5月8日～2024年3月31日

I. 活動の概要

Peace & Science Innovation Ecosystem(以下PSI)の目指すプラットフォームの姿は、「楽しく・生き生き・自然とともに過ごせる平和な社会(地域版・Well-being)を実現」である。この姿を達成するために、「平和」をテーマにしたアントレプレナーシップ教育を中四国地域の関係者の総力を結集して高校生等に「平和希求型人材(※)」の育成を行った。

(※) 自然を大切にする心、自分と関わる人を幸せにする心、自分を大事にする心を有する人材

「平和を希求する精神」は、広島大学の重要な理念の5原則の一つであり、全てのプログラムにおいて、「平和を希求する精神」を意識させつつ、アントレプレナーシップ教育に資する内容になるよう留意し、PSIの目指すビジョンに向かって貢献することを計画した。

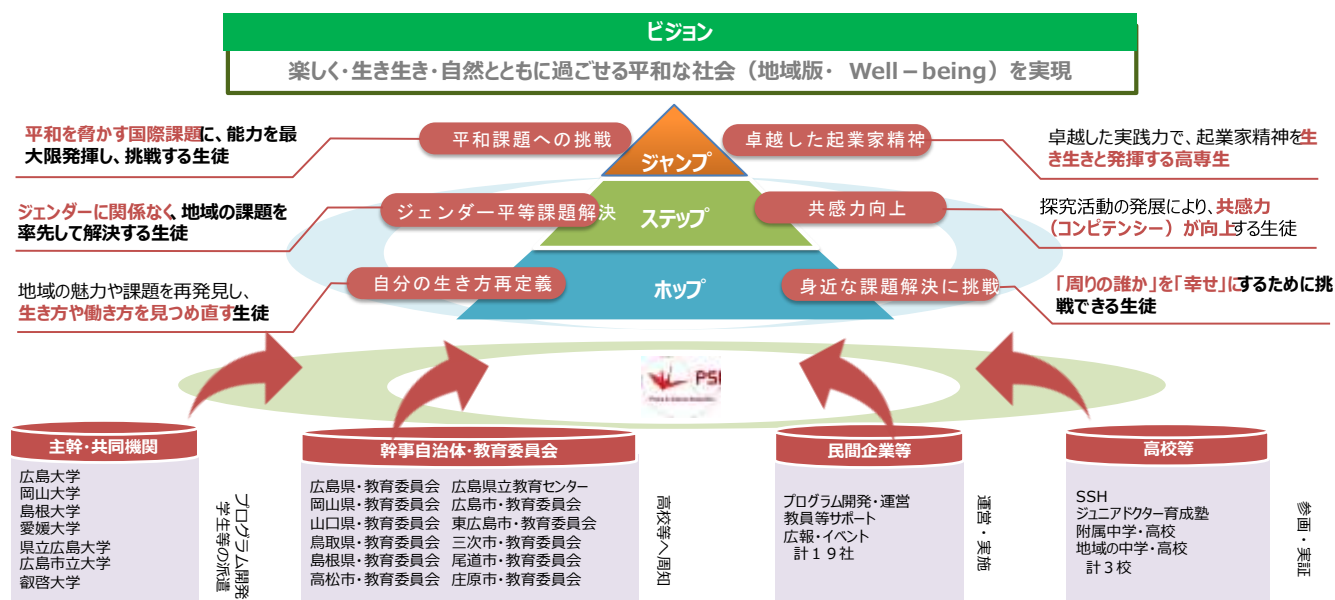
直接的に「平和」をテーマとしたプログラムではなく、「探求活動の発展」を意識したプログラムを意識させることで興味関心を抱かせ、プログラム参加を促進した。その中で「共感力(コンピテンシー)の向上」、「生き方や働き方を見つめ直す新たなキャリア支援」、「挑戦する精神」などを育むプログラムを経験することにより、PSIの目指すプラットフォームの姿に貢献した。

II. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム形成支援(当初予算)で目指すプラットフォームの姿への本取組による貢献

PSIでは、生徒を「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」の3つのステージに区分し、各ステージで地域と連携した適切なテーマを協力機関等との共創のもと、プログラム開発を行なった。上述にある通り、PSIのビジョンである「楽しく・生き生き・自然とともに過ごせる平和な社会(地域版・Well-being)を実現」に貢献するためサイエンスや地域課題、データサイエンスなどのテーマの中で参加者自身が自分ごと化できるようテーマ選定の仕掛けを行った。

また、教育委員会との連携や附属高校を含めた教育課程内の時間を利用することによる「すそ野拡大」を図ったことや、入口である「ホップ」層に該当する潜在的な生徒の発掘に努めたことにより、受講者数は想定以上に増加した。



図A

2. 高校生等へ提供するアントレプレナーシップ教育プログラムの開発・運営

本取組でのプログラムは、随所にPDCAを回せるように、定期的に関催中の「PSIアントレプレナーシップ委員会」内で、「PSI高大接続アントレプレナーシップ委員会」を開催した。その場では、プログラムの振り返りを行い、大学へのノウハウ等を伝承するとともに、運営や受講者に関する課題を洗い出し、改善することを目的とし

た議論を随時行なった。

上記に加え、「オンデマンドコンテンツ(受講生向け及び教員・保護者向け)」のパッケージ化を同時に図ることにより、継続的に実施できる体制を整備した。

受講者向け満足度調査において、各種テーマに沿ったプログラム(キャリア支援、サイエンス、地域課題解決、データサイエンス、アイデア創出ワークショップ等)を提供することにより、非常に高い満足度(平均90%以上)が得られた。また、「グループワークやフィールドワークを増やすことで更なる学びがある」等の肯定的な意見が多く得られた。

3. 高校生等へ持続的にアントレプレナーシップ教育プログラムを提供する体制の構築

図Bのように、プログラムや取り組みごとに適した民間企業等から協力を得て、人材プールや推進体制を構築するに至った。

上述の「PSI 高大接続アントレプレナーシップ委員会」と「高校教員向け研修会／勉強会(広島県教育委員会と連携した研修)」を実施することにより、研修会に参加した教員等のFD(Faculty Development)教育を行うとともに、この研修を機とするネットワーキングを展開し、教員間での知識・ノウハウ等の共有も図ることができた。

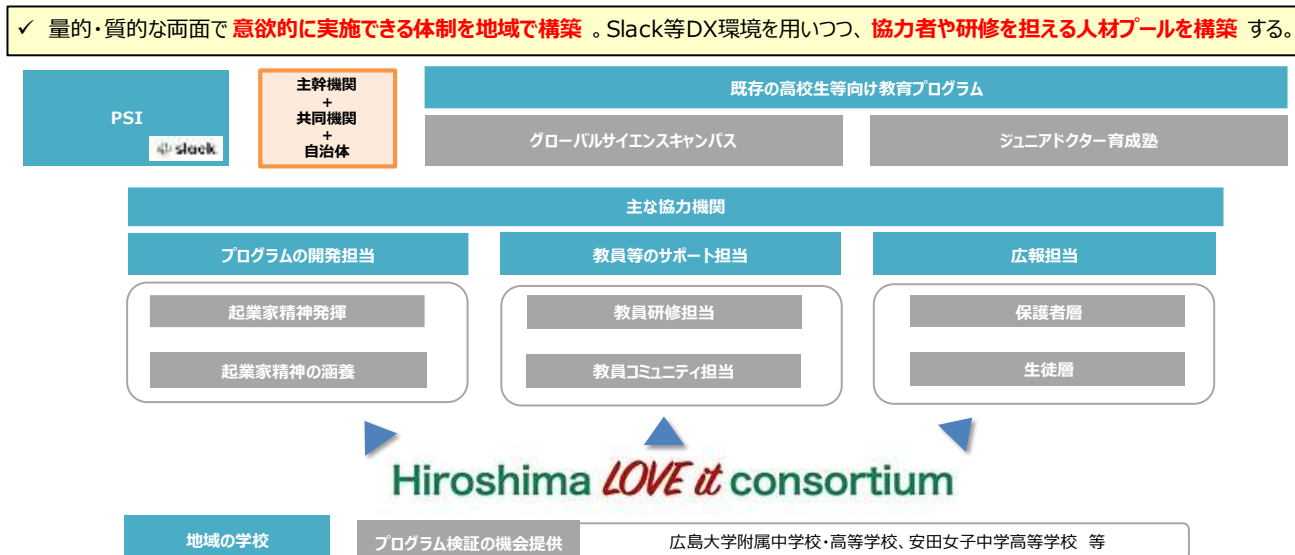


図 B

4. 本取組に関する広報・イベント等の実施

広報に関しては、図Cのように対象者別に広報内容を整理した上で、積極的かつ効果的な広報を実施した。具体的には、PSI共通のホームページ内に、イベント情報やコンテンツをストックすることや、新聞やテレビなど地元メディアとの連携及び高校や自治体を通じた広報活動を実施した。

また、プログラム参加者向けに、「起業家精神を学んだ生徒の横のつながり」を作ることを目的としたコミュニティを形成に関するイベントも実施した。これにより、生徒に校外も意識させ、起業家精神の「涵養」ステージに向けたすそ野拡大を図った。

一方、教員に対しては、広島県教育委員会が実施している「学校魅力化コーディネート力養成研修」をベースに、PSIと教育委員会の共同による「高校教員向け研修会／勉強会(広島県教育委員会と連携した研修)」を開催することができた。

✓ 届けたい層に応じた **適切な媒体・ネットワーク**を利用した広報や、**ノウハウの共有が出来るようなコミュニティ形成イベント**を実施する。

	理想の認知・行動	活用メディア等	ポイント・補足
対保護者	取組について知り、 自分の子供に伝える 。 参加を促す。	ローカルメディア ・中国新聞（掲載記事を高校に一斉配布） ・テレビ新広島（地上波放送の実施）	新聞の強み ・ 保護者の信頼が高く 、地域の高校に一斉リーチ（約300校）できる。 TVの強み ・ 難しい話を分かりやすく番組化する制作力 を有している。
対児童・生徒	取組について知り、参加する。 イケてるプログラムに興味 持つ。	SNS、インフルエンサー ・ Wantedly（SNS広告の実施） ・ 瀬戸内サニー（動画制作等）	・ SNSコミュニティ開設/コミュニティマネジメントの実施 ・ 小中高校最大10校を巡る中四国キャラバンの実施
対教員・学校	正規のルートで周知 され、安心して児童生徒に紹介できる。 ネットワークイベントにより、大学教員との 新たなコミュニティが形成 される。	教育委員会 ・ 周知活動/教育委員会主催の勉強会開催 PSI 高大接続アントレ委員会 ・ 高大接続の推進	・ 熱心な中四国地域の教育委員会を通じて周知 を行う。 ・ 「 高大接続・アントレプレナーシップ委員会 」をSIに新たに設置し、ノウハウの共有・コミュニティ形成を行う。

図C

5. プログラムの定着に向けた取組

図Dの通り、既存の有料制コンソーシアムの会員増強や寄付を募り、運営資金の確保を図った。

一方、PSI全体としての課題は、「ホップ層の定期的な掘り起こし」と「オンデマンドコンテンツやオンラインの積極活用」が挙げられる。

この課題に対し、「PSIアントレプレナーシップ委員会」との密接な連携、協力企業との連携を継続することで、本事業に参加した卒業生（未来の大学生）が運営補助者や指導する立場で戻ってくるような“アルムナイ制度”を企画していく予定である。加えて、有料コンソーシアム内の産学官金のステークホルダーをこの事業への参画を呼び掛けることにより、プログラムの量のみならず“質”の向上を担保しながら維持拡大を図っていくこととしたい。

✓ START事業の成果を最大限活用。**予算が必要な政策は、新たな寄付や自治体予算を獲得**し自律的な運用を意識する。

R4（START事業）	R5～R8（START事業）	
成果	R5（本事業）	R6～
- 地域企業からの会費に伴う有料制コンソーシアムの立上げ（約1千万/年の会費見込み）（2023年度） 寄附や自治体予算の獲得（約1.3千万（2022年度実績））	今回の予算を利用して行う事業 - 起業家教育カリキュラムの開発 - オンラインコンテンツの制作（高校生向け、教員向け） - 地域に向けた広告の実施	会費や寄附等の更なる獲得・利用 （オンラインコンテンツ等無料・買取可能な場合は継続利用）
- VCや地域の起業家とのネットワーク - 中四国地域の起業家教員との連携 起業家教育受講生情報の集約	今回の予算を利用せず、自前で行える事業（START事業の成果を利用） - 高校等向け起業家派遣相談窓口の設置 - 教育委員会との連携による各種研修会の開催	STARTのネットワークを活かし、拡大して実施

図D

以 上